進修館だより 交流マップ

進修館だよりを通じて交流させていただいている皆様を、
マップに掲載していく形でご紹介します！

■ 進修館の屋上

進修館の屋上には巨峰のぶどう棚が広がっています。このぶどう棚は、屋上コンクリートスラブの上に設置されており、建物全体のデザインにおいて重要な役割を果たしています。いつの日か進修館の屋上が沢山のぶどうで覆われるといいですね。

■ 町外・団体・サークルの皆様

- 象設計集団 東京事務所（東京都狛江市）
- 象設計集団 十勝事務所（北海道河東郡音更町）
- 沖縄県今帰仁村役場（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- 今帰仁村歴史文化センター（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- （一社）今帰仁村観光協会（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- 古宇利島の駅 ソラハシ（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- （株）国建 北部事務所（沖縄県名護市宮里）
- 森の交流館・十勝（北海道帯広市）
- 大学セミナーハウス（東京都八王子市）
- 入間市文化創造アトリエAMIGO!（入間市仏子）
- 久喜市菖蒲文化会館アミーゴ（久喜市菖蒲町）
- CAFE パロキア（久喜市菖蒲町）
- 珈琲パウエル（久喜市久喜）
- （株）ふれあいクラブ（宮代町宮代台）
- （株）彩和とらすとサービス（白岡市小久喜）
- 杉戸町障がい者支援センター（杉戸町清地）
- 日の出（幸手市中）
- （株）あおば保険事務所（春日部市中央）
- 白田陽介税理士事務所（久喜市久喜東）
- ～語りと和楽の芸人衆～ かたりと（東京都北区）
- （株）カンパニーヒュッゲ（春日部市上蛭田）
- （有）大城産業（茨城県古河市）
- （有）今帰仁城（茨城県古河市）
- （株）シェアリッチ株式会社（茨城県古河市）
- L'AUTRE MAISON 西ノ洞（群馬県館林市）

※ 進修館だよりは、進修館および青文字の場所で入手することができます。
※ 各所の配架数には限りがあります。各所の在庫については進修館にお問い合わせください。

■ 進修館だよりで交流させていただいている自治会をご紹介します！（50 音順）

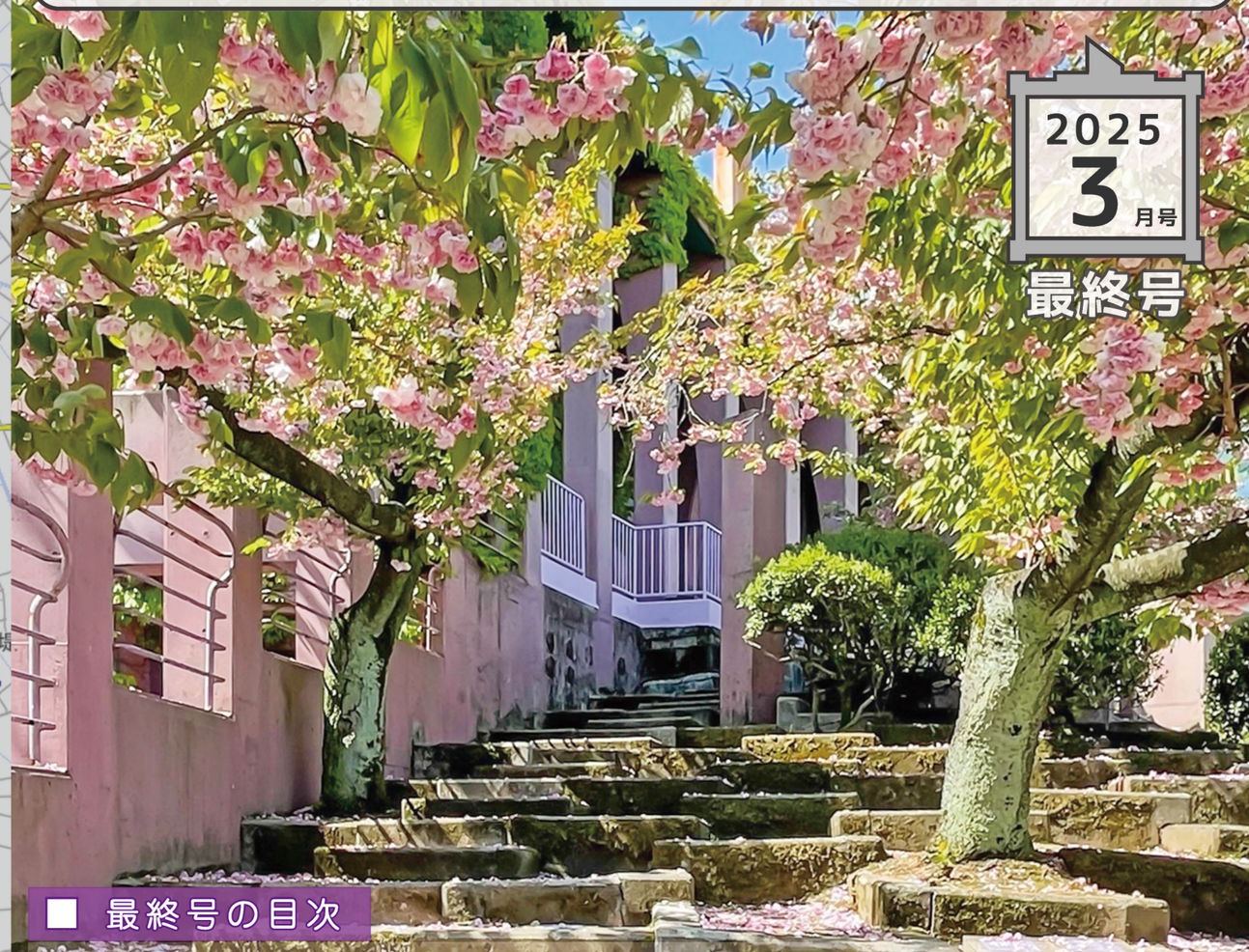
- 稲荷町町内会
- 内野自治会
- 笠原２丁目町会
- 金原地区自治会
- 川端一区自治会
- 川端二区自治会
- 川端三区自治会
- 国納北
- 国納南
- 逆井地区
- 桜木町
- 宿地区
- 新中町会
- 新道三区町会
- 新道第一町会
- 新道第２町会
- 辰新田町内会
- 中央第１町会
- 中央第２町会
- ディアコート宮代自治会
- 道佛１区町会
- 道佛３区町内会
- 中須地区
- 中寺地区自治会
- 西原自治会
- 東地区自治会
- 東粂原自治会第１地区
- 東粂原自治会第２地区
- 姫川一区自治会
- 姫川二区自治会
- 姫宮北団地自治会
- 姫宮南団地自治会
- 藤曽根地区
- 弁天町
- 宮代１丁目１町会
- 宮代1丁目第2町会
- 宮代学園台自治会
- 宮代台自治会
- 桃山台自治会
- 山崎地区
- 柚ノ木１
- 柚ノ木二区自治会
- 若宮自治会
- 和戸１丁目町内会
- 和戸２丁目１
- 和戸２丁目２区
- 和戸３丁目
- 和戸４丁目１区
- 和戸４丁目２区
- 和戸５丁目地区

Community Center Shinsyukan

進修館だより

2025 3月号

最終号



■ 最終号の目次

１Ｐ：表紙「花道」
２Ｐ：「ごあいさつ ～MCA代表理事より～」
３Ｐ：「まちの皆様にインタビュー！」特別編
４Ｐ-５Ｐ：
「１０年間ありがとうございました」
「MCAの進修館指定管理のあゆみ」
６Ｐ：「教えて、田沼さん！」特別編
「進修館＆今帰仁村グッズ」販売終了
７Ｐ：「“外”から再発見、進修館の魅力」
「ケイコ・ボルジェソンさんご来館」
８Ｐ：裏表紙「進修館だより交流マップ
トピックス「進修館の屋上」

進修館だより 2025年3月号（第47号） 第1版：2025/02/25 発行
発行元：宮代町立 コミュニティセンター進修館
（指定管理者：特定非営利活動法人 ＭＣＡサポートセンター）

住　所：〒345-0822 埼玉県南埼玉郡宮代町笠原1-1-1 TEL：0480-33-3846
ＵＲＬ：https://www.shinsyukan.or.jp E-mail：info@shinsyukan.or.jp

ごあいさつ

この度、私ども特定非営利活動法人ＭＣＡサポートセンター（以下「ＭＣＡ」）は、２０２５年3月31日をもちまして、コミュニティセンター進修館の指定管理事業から撤退することといたしました。10年の長きに亘って進修館に関われたことは、私どもにとって有意義なことでした。しかしながら、契約期間を１年残しての撤退となったことは、なんとも口惜しい限りです。

みなさまもご存じの通り、進修館は宮代町におけるコミュニティの中心となる施設として、1980年に開館しました。当時の宮代町長・齋藤甲馬氏は象設計集団に設計を依頼するにあたり「世界のどこもないもの」「子どもたちが成長したとき誇りをもって言える」「みんなが気軽に集まれる」施設として作ってほしい、と希望したそうです。その思いを受け、象設計集団の建築家たちは、宮代町の地勢、歴史、生活、地域で行われている活動の様子などを調べ、それを建物の意匠に取り入れました。言うなれば、進修館は宮代町を表現した建築です。「進修館は宮代町のシンボル建築だ」という言葉をよく耳にしますが、それは「有名な建築家集団が手掛けたユニークな建築」だけでなく、「宮代町そのものが表現されている建築」だからだといえます。

ＭＣＡが進修館の指定管理者となったのと時を同じくして、進修館に事務局をおいていた宮代町コミュニティ協議会（以下「コミ協」）が解散しました。町内各所にある個々のコミュニティをつなげる役割を持つコミ協事務局が進修館にあったことは、この建物に与えられた役割から、とても重要な意味を持っていたと考えています。コミ協という、地域コミュニティの横断的つながりの仕組みが進修館からなくなった状態から、いかに関係構築をして進修館をコミュニティの中心施設と位置付けるかということが、私どもＭＣＡが指定管理事業を通じて考えてきたことでした。とはいえ、一施設の管理運営を通じてこの問いに答えを出すことは至難の業です。しかしながら、他でもない進修館だからこそ、地域を支え支えられる場になるべきとの思いで、様々な事業に取り組んできました。

そうした中、沖縄県今帰仁村のみなさまとのつながりが生まれました。今帰仁村は、同じく象設計集団が手掛けた中央公民館を有しており、この中央公民館を地域コミュニティの中心として再評価し活用しよう、という動きがあります。また施設管理においては、コンクリート建築の維持管理の難しさを実感する者同士。様々な共通点から意気投合し、交流が深まりました。何より感じたのは、象設計集団の建築理念である「自力建設」の考え方を大切にしているということでした。「自力建設」とは、単に具体的な建設を指すのではなく、自らの地域を、自らの手でつくり上げてゆく哲学です。理想を掲げつつ、地域とともに考え進めていこうとする今帰仁村のみなさんの姿勢には、ことあるごとに刺激を受けました。そしてこの交流が、今帰仁村の舞踊集団を進修館に招聘して開催した「なきじんまつり in 進修館」につながりました。開催に当たっては、宮代町の地域コミュニティとの連携も取り入れたく、８町会連合会での民泊受け入れや、宮代町民俗舞踊連盟の協力による町民参加の「宮代音頭」演舞などを行いました。

ＭＣＡが当初掲げていた問いへの答えが、少しずつ形になりはじめた２０２４年度でしたが、大ホールが長らくコロナワクチン接種会場であったことによる顧客流出や、電気料金をはじめとする物価高騰などの影響は著しく、運営には公金の追加予算が必要な状況になりました。また進修館は元々、宮代町役場の別館として建てられたというルーツもあり、公用利用（役場事業による無料の施設利用）も多く、収益事業の計画が立てにくいという特性も重なり、私どもの法人から資金を捻出しつつの運営となっていました。２０２５年度の事業継続に当たり、予算に関して町との協議をしたものの交渉は難航し、このまま指定管理事業を継続した場合、当法人に多大な損失が生じると判断し、撤退を決断いたしました。

急な決定となったことで、多方面にわたりご迷惑をおかけすることになりましたことをお詫びいたします。また、当方からご挨拶が出来ておらず、本誌を以ってのお知らせになってしまっている方もおられます。

様々なご無礼につき、重ねてお詫び申し上げます。この１０年、ご支援いただきましたこと、誠にありがとうございました。

特定非営利活動法人MCAサポートセンター　代表理事 渡邉朋子

まちの皆様にインタビュー！ 特別編

このコーナーでは、宮代町に在住・在勤・在学など宮代町に関わる方々にお話を伺っています。

進修館を設計した象設計集団の建築家・富田玲子さんにとって、進修館はまるで家のように「帰るところ」という感覚があるそうです。それは、「入り口がたくさんあって、どこからでも挨拶もなしに入れたりする」からだとか。人々を引き寄せ、和ませるこの建築の設計にあたって、富田さんはどのようなことを考えていらしたのでしょうか。象設計集団東京事務所を訪れ、お話を伺いました。

【何が必要で、何が足りないかを考える】

宮代町の初代町長齋藤甲馬氏は、象設計集団に設計を依頼するにあたり、「庁舎はボロでもいいが、町民の集会所には金をかけたい。みんなが使える、集まってきやすい公民館を立ててほしい。世界にひとつしかない建築をつくってほしい」と雲をつかむような話されたそうです。また、当時の宮代町役場の前の土地が造成されていること、ギャラリー、研修室、ホール、体育館もあり、町議会もできるような建物にしたいこともわかりました。何より「世界にひとつしかない建築」とは何なのか、様々な資料をあたったり、宮代町内の集会所の使われ方の調査をして、どのようなものが必要で、何が足りていないのかを考えたそうです。役場の職員やまちの人々、体育協会や文化団体の方など、これから施設を利用するであろう方々の話を聞き、必要なものを取り入れていったのだそうです。

【設計の軸を定める】

建築を設計する際、富田さんたちはたくさんのスケッチを描き、また言葉を抽出して軸を決めていきます。この設計の軸が決まるまではとても大変な作業ですが「決まってしまうと、どんどん発想が湧いてくるんです。」とおっしゃっていました。進修館の場合、みんなの居間、みんなの勉強部屋、みんなの台所、みんなの遊び場、などの言葉が抽出されました。また、世界の中心を定め、東西南北グリッドや富士山と筑波山を結ぶ線など、この土地だからこその要素が取り入れられています。目に見えないものを形にするということは、並大抵のことではできません。またそれは、住んでいる人にとっては「あたりまえのこと」であるだけに、見つけることが難しいといえます。進修館を設計するためにその土地を歩き、そこにあるものを発見することの大変さを思うと、宮代町はそれを進修館という建築として表現してもらっているのだな…と、ありがたく感じます。

【風土を取り入れる】

象設計集団は建物の設計をするに際して、その土地や歴史などを調査し、デザインに取り入れています。進修館の場合、1970年代後半の宮代町の風景となっていた、屋敷林に囲まれた農家や美しい水田、ブドウ棚、あいまいな曲線を描く地形のひだなどが、それにあたります。屋上までブドウ棚が設置されているため、上から見ると建物と庭が屋敷林のようになっています。そして、進修館も町内に点在する屋敷林のひとつになるようにつくられているのです。

【お話を伺って】

開館して４５年。富田さんは何度となく進修館を訪れています。そして、芝生広場を丸く囲むように座ってお弁当を食べているグループに話しかけたり、進修館ファンクラブのつどいで会員のみなさんとの交流を楽しんでいただいています。お会いするたびに富田さんが「進修館に向かうとき、とてもワクワクするんですよ」とおっしゃるのは、きっと、ご自身が関わった進修館が使われている様子をご覧になるからなのでしょう。自身が設計した建築であっても、所有者がどのように使うのかは見守ることしかできないのだと感じます。富田さんをはじめ象設計集団の方々が「建物を出来たときのままに残してほしい」とおっしゃるのを聞いたことはありません。むしろ、どのように活用されていくのかを楽しみにしているように思えます。進修館の管理運営や象設計集団のみなさまとの交流、また今回の富田さんのお話を通して、「建物は、そこに関わる人がいてこそなのだ」と改めて感じました。

富田さんは中学生の頃、ご実家のリフォーム計画を女性建築家第一号の浜口ミホさんが手掛けた際、「設計の力でこんなに変化が起こるなんて！」と感動したそう。その記憶が、ご自身も建築の世界に入るきっかけの一つとなったそうです。

象設計集団東京事務所には「進修館だより」のバックナンバーが掲示されていました。感謝！

事務所の片隅には、こんなかわいらしいプレートが…。常に遊びゴコロがあるって、何だか素敵です。いつもおつかれさまです！

今回伺った象設計集団東京事務所のポスト。進修館の家具のデザインに似ていて何ともかわいらしい！

１０年間ありがとうございました。

私どもNPO法人MCAサポートセンターは、
２０２５年３月３１日を以って、
進修館指定管理事業から撤退することといたしました。

長年にわたり皆様にご愛顧いただきましたこと、
心より感謝申し上げます。

■ＭＣＡによる進修館指定管理事業のあゆみ

第１期（２０１５年４月～２０１８年３月）

宮代町に指定管理者制度が導入され、進修館の運営が宮代町からＭＣＡに変わった初年度は、様々なことについて右も左もわからない状態でした。そこでまず行ったのは館内状況の把握（備品や鍵の整理、インフラの確認など）や予約管理のシステム化など、運営基盤を整えることでした。指定管理１年目のほとんどの時間は運営基盤整備に費やされましたが、翌年からは徐々に事業（音楽事業や講座などのイベント、各種媒体による広報活動）に取り組めるようになりました。

２０１５年１１月に行われた結婚式。
町内事業者にもお手伝いいただきました。

第２期（２０１８年４月～２０２１年３月）

指定管理２期目は１期目で整えた運営基盤から更に発展させ、利用しやすい環境の整備（予約システムの改善やFree WI-FIの導入など）を行ったほか、MCA独自の事業（冊子の発行や進修館ファンクラブの結成、撮影・取材や見学の積極的受け入れによる広報展開など）に取り組みました。残念ながら第２期後半はコロナ禍に見舞われ、思うような運営ができませんでしたが、今後のコミュニティ醸成へとつながる種まきを意識した運営を行いました。

「進修館だより」の前身「宮代PUNCH」。
宮代町の「人」に着目した冊子でした。

第３期（２０２１年４月～２０２５年３月）

指定管理第３期目はコロナ禍真っ只中の状態で始まりました。三密回避や大ホールがワクチン接種会場となるなどの理由で進修館の貸館利用者数が著しく減少する中、宮代町における町民コミュニティの中心として、その灯を消さないよう、事業展開に力を入れるようにしました。進修館だよりの発行・配本による地区・自治会や事業者との交流、集会所サロン開催など進修館外でのコミュニティ醸成活動、進修館に縁のある地域や町外事業者との積極的な交流、そこから生まれる宮代町の地域活性の試みなど、様々な事業に取り組みました。特に沖縄県今帰仁村とのつながりは、各方面に宮代町の存在をアピールできたほか、今帰仁村の子どもたちと町内自治会との交流を生むなど、地域コミュニティ醸成に大きく貢献できたと思っています。また、町民からの声としてあがっていた「何の目的でやっているかわからない」「一部の人たちだけで盛り上がっている」というご指摘も、様々な事業を通して皆さまと交流してきたなかで、状況について把握いただけたかな…と思っています。ＭＣＡは「進修館は宮代町のシンボルであり、地域コミュニティの中心」であると同時に、「進修館は世界の中心のひとつ。宮代町が世界に誇れる存在」ということを意識して中にも外に開かれた運営を心がけてきました。

２０２３年５月に行われた宇佐美圭司氏による緞帳デザインの原画贈呈式。

2024年11月に行われた「なきじんまつり」。
町内外から多くの方がお越しになりました。

教えて、田沼さん！「進修館のあんなこと、こんなこと」最終回

特別編　アトリエ修羅　西尾貞臣さんにお会いしてきました！

毎号、進修館建設時に担当をしていた元宮代町役場職員・田沼繁雄さんにお話を伺っている本コーナー。最終回は、当時現場監理をしていた、元象設計集団・西尾貞臣さんにお話を伺いました。

西尾さんとお会いしたのは、愛知県小牧市にある「アトリエ修羅」。温かみのある木の扉を入ると、まるで図書館のようにたくさんの本に囲まれた空間が広がっていました。大きな木のテーブルをはさんで、西尾さんはゆっくりと進修館建設時のお話をしてくださいました。

西尾さんが進修館の建設に関わっていたころ、都内から宮代町に電車で向かうと、姫宮駅周辺に新しい戸建ての住宅があり、その他はのどかな田園風景が広がっていたそうです。杉戸駅（現在の東武動物公園駅）には広大な車両スペースがあって、長い橋を渡って宮代町へ行く。行くと何だか駅裏のような景色が広がっていた、という印象とのことでした。その頃はちょうど東武動物公園ができるという時期で、駅から東武動物公園へ向かうメインストリートがまっすぐ通っていましたが、周辺には空き地がたくさんあり、進修館の南側は何もなくまっさらな風景だったそうです。当時の宮代町は、人口もあまり多くなかったからか、町の人も役場の人も「宮代愛」にあふれている、と西尾さんは感じたとのことでした。

進修館が建設されている場所の北側（現在の芝生広場付近）には町役場と消防署がありました。当時は役場の建物があまり大きくなかったこともあって、会議室を議会でも使ったりするなど、うまくやりくりしていたそうです。そんな中で、役場の別館として、進修館の建設が始まりました。大きな建物が出来上がっていく現場の隣で役場の職員が仕事をしているので「進修館が出来上がっていく様子を役場の方たちも一緒に見守ってくれている」と西尾さんは感じたそうです。

現場に掛かりきりになっていた西尾さんは、役場の宿直室を借りて寝泊まりし、週のうち現場に５日、東京の事務所に週１日行き、その時に自宅に寄る、という生活だったとのこと。そのころ、杉戸駅から進修館の道すがらに書店があり、外で食事をした後「何かいい本はないかな」とよく立ち寄っていたのだそうです。そんな折に、その書店で田沼さんにばったり会い「こんなところで会うなんて」とお互い驚いたそうです。「この本を買ったとき、田沼さんといっしょだったことをよく覚えているんですよ。」と言って、西尾さんは一冊の漢和辞典を見せてくださいました。また、借りていた宿直室が取り壊されることになり、ちょうど自宅の改築工事のため和戸に一軒家を借りて仮住まいをしていた田沼さん宅に「少しだけ居候させてもらった」なんていうエピソードもあるそうです。

進修館の建設をきっかけに出会った西尾さんと田沼さん。お２人それぞれからお話を伺ってみて、象設計集団の建築に対する熱量と、当時の宮代の人々の地元への愛情の大きさを感じました。こうした思いが、これからの進修館に受け継がれていくといいですね。

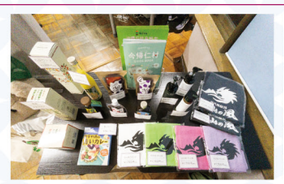
愛知県にあるアトリエ修羅の入り口。建物からは、西尾さんのあたたかいお人柄がにじみ出ているかのようです。

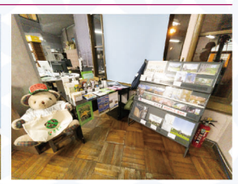
宮代町内にあった書店で購入した漢和辞典は、田沼さんとの出会いの思い出のひとつ。書店でばったり会ってお互い驚いたそう。

古利根川沿いにある喫茶店「チロル」。とても居心地が良くて、田沼さんと行くと話が弾んだそうです。

■ 進修館からのお知らせ「進修館グッズ＆今帰仁村グッズ販売は、３月８日（土）まで！」

一部の商品は売り切れとなるなど、大好評を得ている「今帰仁村グッズ」。
ＭＣＡの指定管理撤退に伴い、３月８日（土）２１時で販売を終了します。
（ＬＩＮＥでは２月２８日までとお知らせしましたが、好評につき延長します！）
気になる方は、売り切れになる前にボランティア室にお越しくださいね！





ちょこっとコラム

このコーナーは、読者の皆さまに楽しんでいただける様々な情報をお届けしています。

◆ L'AUTRE MAISON 西ノ洞（にしのほら）・川生（かわおい）さんとケイコ・ボルジェソンさんがご来館！

世界約20カ国で活動を続けるジャズピアニスト・ケイコさんのライヴは必聴です！

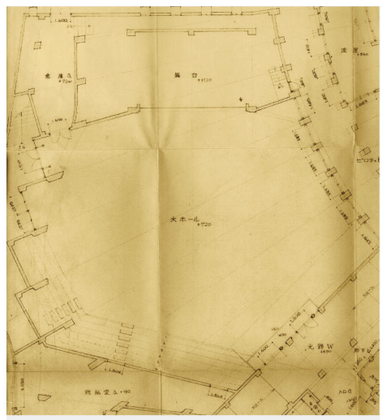
象設計集団との共同体「TeamZOO」として、今帰仁村中央公民館などの設計に携わったアトリエ・モビルの丸山欣也氏。その丸山氏が設計した建築が群馬県館林市にあります。その名は「西ノ洞」。カジュアルなフレンチレストラン「西ノ洞」は進修館を思わせるような佇まいで、家具も進修館と同じ坂本和正氏によるもの。進修館では昨年の秋頃から西ノ洞と交流しており、お互い行き来する間柄です。その西ノ洞のオーナー川生りえ子さんが、先日、ご友人のケイコ・ボルジェソンさんと一緒にご来館されました。ケイコ・ボルジェソンさんといえば、日本が誇る世界的なカリスマ・ジャズピアニスト。まさか進修館にお越しいただけるとは…感激です！

「西ノ洞は私の音楽活動の出発点」と仰るケイコさんは、西ノ洞と同じような雰囲気をもつ進修館に興味を持たれ、この度、川生さんのご案内の元ご来館されました。館内を散策し、２Ｆロビーのピアノに触れ、そして一言。「いつがいい？」なんと進修館でジャズライヴを開催してくださることになりました。残念ながら、４月はMCAの指定管理は終了しているため進修館の主催共催事業とはなりませんが、進修館でライヴを開催してくださるのは本当に嬉しいです！詳細が決まったら館内にポスターの掲示やチラシが配架されると思いますので、ご興味ある方はチェックしてくださいね。また、3月31日までは進修館でも前売チケットを販売しますので、是非ご購入ください！

「“外”から再発見、進修館の魅力」最終回

このコーナーは、進修館でアルバイトしている日本工業大学の学生（地元は福島県）が、町外から宮代町に越してきて感じた、進修館の魅力について語るコーナーです。

大ホールの梁は入れ方にも工夫が施され、下から見るとマス目状になっています。これは宮代町の特産品でもある巨峰のブドウ棚を再現しているのだとか。



こちらは進修館の設計図面。広いところだと２０ｍ以上もスパンが飛んでいます。（一般的な建築物のスパンは十数ｍ前後）

みなさん、こんにちは！日本工業大学建築学科１年の浦山です。みなさんは2024年度をいかがお過ごしでしたでしょうか？僕は進修館に携わったこの１年間で、建築にまつわる様々なことを学ばせていただきました！僕はもともと地元の工業高校でも建築を学んでいたので、木造建築のことなら少しは分かるのですがＲＣ造（鉄筋コンクリート造）やＳ造（鉄骨造）に関することは全然分かりませんでした。しかしこの進修館でアルバイトをする中で、大学の授業内で座学的に得た知識を実際に観たり触れたりしながら体で学ぶことができ、人に寄り添ったデザインに関することや現実的で安全な構造体の大きさなどを知ることが出来ました。という事で今回、僕が紹介する魅力の場所は大ホールです！

町のイベントなどでも使われるこの大ホールですが、実は細かなところで様々な工夫が凝らされています。大ホールはその名の通り、とても大きな空間を作り出しています。この大きな空間を支えるにはそれ相応の大きな梁と柱が必要になってきます。するとホール内から観た時に圧迫感や躯体の重い感じが出てきてしまい、結果的にそこにいる人に対して使いづらさや緊張感を与えてしまいます。しかし進修館の大ホールは梁を柔らかく湾曲させることでコンクリート造特有の硬さや冷たさ、重さを感じないように工夫されています。

こういった細かく施された工夫が大ホール、ひいては進修館全体が長らく町に愛され、大事に使われてきた歴史にもつながっていると感じています！

今回は大ホールの魅力を“外”からお伝えさせていただきました。みなさんも進修館に来た時にはぜひ、館内にある小さく細かな工夫やそこに込められた宮代愛を見つけてみてください！象設計集団による世界的意匠、この町が誇る「世界の中心」である「進修館」を、もっともっと好きになっていただけたら幸いです。

※「スパンが飛ぶ」
建築用語で「建物を支える柱と柱の間隔が離れること」を「スパンが飛ぶ」といいます。